

平成30年度 中学生の「税についての作文」 優秀作品紹介

11月17日、平成30年度中学生の「税についての作文」表彰式が玉名市で開催されました。

今年度は荒尾玉名地域の中学校16校から1,675編の応募があり、和水町から4人の生徒が受賞しました。また、「税についての作文」募集について特に協力が顕著な中学校として三加和中学校に全国納税貯蓄組合連合会から作文募集推進校感謝状が贈られました。



- 熊本県玉名教育事務所賞……………北原 花帆（三加和中学校3年）
- 玉名地区租税教育推進協議会会長賞……………市村 千代（三加和中学校1年）
- 和水町長賞……………柴尾 知美（菊水中学校3年）
- 和水町教育長賞……………仲田 ひな（三加和中学校3年）
- 全国納税貯蓄組合連合会 作文募集推進校感謝状…三加和中学校



三加和中学校 三年 北原 花帆

熊本県玉名教育事務所賞

『ありがとう、税金』

「消費税が十パーセントに」私はこの新聞の記事を見て「また、消費税が上がるのか。いやだなあ。」と思っていました。でも、よく考えてみると消費税を含む「税金」は私たちの生活を豊かにするための大切な物だということに気づきました。

中学一年の冬、私の大好きだった祖母がくも膜下出血で倒れ、ドクターヘリで大きな病院へ運ばれました。そして七時間にわたる大手術をし、その後も脳を調べるための検査や手術をくり返していました。一命はとりとめました。今も祖母は入院生活を送っています。祖母が運ばれた時に使われた救急車やドクターヘリにかかる費用はすべて税金が使われています。もし、日本に税金がなく、救急車やドクターヘリが有料だったら、その費用は高くて払うことができず、車で病院まで行っている間に

祖母は命を落としていたかもしれない。それだけでなく、手術や検査などに使われるばく大な費用を負担するには、家族がどれだけ休みなく働いたとしてもすべて払うということは、ほぼ不可能に近いと思います。この時に私は、税金があつて本当によかったと心から思ったことを今でも忘れません。

私はそれから税金はどんなことに使われているのかを考えてみました。医療費にはもちろん、小中学校の学費や年金など、さまざまなところに使われています。税金があるおかげでみんなが幸せに暮らすことができている。重い病気にかかると高い費用のために治療をせず命を落としてしまう人や、お金がないからといって学校に行けない子どもたちがいてはなりません。重い病気にかかっても治療に専念する義務、子どもたちに教育を受けさせる義務が日本にあるからこそ、私たちは幸せに生きることができているのです。

私は祖母の命を救ってくれた税金に感謝します。これから私が大人になって、税金を納めるようになったら、この分までしっかりと働き、お礼として返していけたらいいなあと思いました。



三加和中学校 一年 市村 千代

玉名地区租税教育推進協議会会長賞

『ひいばあちゃんと年金』

私には今年九十三歳になるひいばあちゃんがあります。ひいばあちゃんは老人ホームに入所しています。もちろん仕事はしていません。わたしはふと思いました。仕事をしないということはお金をかせげないということ、入院にかかる費用などはどうしているんだろうと。そこで私は、おばあちゃんにきいてみることにしました。

おばあちゃんはひいばあちゃんのことを思い出すように話してくれました。ひいばあちゃんには、戦争に行つたひいじいちゃん、戦争に行つた人がもたらえるという、軍人恩給をもらつていたそうです。そして、ひいじいちゃんが亡くなったあと、ひいばあちゃんは軍人恩給をもらつていた人の遺族がもらえる遺族年金をもらつているそうです。また私はおばあちゃんに、「ひいばあちゃんは、遺族年金の他にも年金をもらつていたの。」とききました。ひいばあちゃん

んは働いていたけど、ひいじいちゃんの扶養にはいっていただけから年金はもらつていないことを教えてもらいました。

私は、軍人恩給のことをもう少し詳しく知りたかったので、お母さんに調べてもらうことにしました。軍人恩給とは国家に身体生命をささげてつくすべき関係にあったこれらの者および、その遺族の生活を支えるとして給付される国家保しよを基準とする年金制度ということが分かりました。私は今まで戦争に行つた人が年金をもらつていて、それを初めて知りました。またその年金を支えに暮らしている人がいることも改めて知りました。

私は今回、ひいばあちゃんの年金のことについて調べてみて、軍人恩給や遺族年金のことなど初めて知ることがたくさんありました。また今まで税金ときいて思ひかぶイメージは嫌なことばかりだったけど、ひいばあちゃんのように税金をたよりにして生きていく人がいることを知ってイメージが変わりました。そして私には何が出来るか考えてみました。

私はまだ中学生で直接税金を納めることは難しいけど、私を知つたように税金をたよりにして生きていく人がいることをいろんな人に伝えることはできると思いました。



菊水中学校 三年 柴尾 知美

和水町長賞

『税と私たちの生活』

消費税。それは私たちにとって最も身近な税といえるだろう。私が一番最初に税を意識したのは小学校低学年の頃だった。百円均一の店に売ってあったシールを気に入って自分の小遣いで購入した。百円だと思っていたら店員さんに、「百五円です。」

と言われ驚いた。百円じゃないのか。その後、母にたずねると、物には全て税というものがつくんだと教えられた。しかし私はまだ税のことをよく理解できず、買った物が高くなる面倒な負担だと思っていた。

次に税を改めて考えたのは二〇一四年に消費税が八パーセントに引き上げられることになった時だ。その頃には、税があるから生活できているという認識もできるようにになっていた。しかしやはり「負担」というイメージが大きく、「払わなければいけない分が増えて嫌」と思った。でも父や母はもっと早く増税すべきだというような話もしていた。私はなぜだろうと不思議に思った。そして、現在。税について知って

いることは大幅に増えた。税があるから学校に行ける。医療費が無料、道路が使える……。また、国の借金も税金によって返さなければならぬと知った。八パーセントに引き上げられる時に父と母が話していたのはこのことだったのだ。

来年十月には消費税が十パーセントに引き上げられる。私は、増える二パーセントの分は国の借金を返すことにまず第一に使うべきだと思ふ。いつかは返さなければならぬのだから。そしてそれは私たちがけでなく未来の人たちにもつながっていく。税金によって福祉などを充実させることも大切だと思ふ。でもそれは借金が無くなってから考えてもよいのではなからうか。

私たちは未知だ。私の税に対する考えが合っているのか間違っているのかなど分からない。でもだからといって、税について考えることをやめてはいけない。税について考えることは、私たちの未来を考えると同じだと思ふからだ。税は現在の生活だけでなく、私たちの未来の生活にも大きく関わっている。だから、私はこれからの日常で税に目を向けてみたい。税によって作られたもののように目に見えるものだけでなく、税によって私たちができることといった目に見えないものまで。そうすることが税について考える私にできる第一歩。税について、未来について積極的に考えて生きていきたいと、私は思う。